

JA全農えひめ情報

みらいへど

2018

6 - Jul.
Jun. 7

■特集

平成30年度「農業者所得増大チャレンジ事業」





▲「EBCプライムフライデー」第1回放送は「トマト」。
J A 愛媛たいきの矢野正祥さん(右)をチョーさんこと
長島幸雄さん(左)が訪問



▲「えひめ旬食活動」第1回放送は「はだか麦」。J A 松山市の豊田年秋さんを紹介

放送局 テレビ愛媛

タイトル えひめの食「えひめ旬食活動」

放送日 奇数月：第2日曜日

偶数月：第3日曜日

「ほーなん」(日曜日 朝9時～10時)

内コーナー「まさご町食堂」

「えひめ旬食活動」

放送スケジュール(予定)

回数	放送日	品目
1	5月27日(日)	はだか麦
2	6月17日(日)	玉ねぎ
3	7月8日(日)	きゅうり
4	8月19日(日)	ピーマン
5	9月9日(日)	伊予美人
6	10月21日(日)	ふれ愛・媛ポーク
7	11月11日(日)	温州みかん
8	12月16日(日)	伊予牛「絹の味」
9	1月13日(日)	プロッコリー
10	2月17日(日)	せとか
11	3月10日(日)	アスパラガス

※ 取材品目については、変更の可能性があります。

「えひめ旬食活動」第1回放送は「はだか麦」。J A 松山市の豊田年秋さんを紹介

「えひめ旬食活動」第1回放送は「はだか麦」。J A 松山市の豊田年秋さんを紹介

また、「EBCプライムフライデー」(金曜日16時48分～19時00分)においても、毎月1回程度、愛媛の旬の食材を取り上げた特集企画を実施。なお、今後「えひめの食」企画ホームページにおいて、番組告知やテレビ番組放送分をアップしていきます。

また、「EBCプライムフライデー」(金曜日16時48分～19時00分)においても、毎月1回程度、愛媛の旬の食材を取り上げた特集企画を実施。なお、今後「えひめの食」企画ホームページにおいて、番組告知やテレビ番組放送分をアップしていきます。

また、「EBCプライムフライデー」(金曜日16時48分～19時00分)においても、毎月1回程度、愛媛の旬の食材を取り上げた特集企画を実施。なお、今後「えひめの食」企画ホームページにおいて、番組告知やテレビ番組放送分をアップしていきます。



「えひめの食」企画 テレビ番組「えひめ旬食活動」

めぐり〜ど

2018年6 - 7月号

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



梅雨の晴れ間に、洗った梅をザルに広げて、縁側で、梅仕事を始めましょう。小さな男の子はきれいに水気をふきとって、お姉ちゃんはヘタを竹串でとる係。「おいしくなあれ」。ひとつひとついいに、瓶の中へ納めていきます。今年は梅干し？ 梅酒？ 梅シロップ？ 仕事を終わったら、梅雨明けと食べごろが一緒にやってくるのが待ち遠しい限りです。

●表紙：梅仕事
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.204

「えひめの食」企画 テレビ番組「えひめ旬食活動」

2

〈特集〉

平成30年度「農業者所得増大チャレンジ事業」

「農業者の所得増大」と 「農業生産の拡大」に向けて 実践していきます！

6

トピックス

4月14日 = 「オレンジデー」!

7

THE・ねっとわーく

8

ふるさと ESSAY VOL.272

誰でも先生、誰でも生徒、 どこでもキャンパス

泉谷 昇さん

10

TOPIC NEWS

15

統計BOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉 枝豆

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimemosyoku/>
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料
<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)
<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)
<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス
<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)
<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

◆JAえひめ物流(株)
<http://www.jat-ehime.co.jp/>

「農業者の所得増大」と 「農業生産の拡大」に向けて 実践していきます！

J A全農えひめは、平成28年度からの3年間、「農業者所得増大チャレンジ事業」を展開しています。最終年度となる平成30年度は、J Aグループ自己改革である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」の着実な実践に向けて、J A・部門間連携の更なる強化とスピード感をもって取り組んでいきます。

事業方針

過去2ヶ年の実証結果に基づき、重点品目および新規振興作物（多収穫米、加工・業務用野菜等）の普及・拡大と産地づくりをすすめるとともに土壌環境の改善および栽培技術の徹底・省力化技術・資材の推進を図ります。販売事業においては生産流通体制の効率化を図り、パートナー市場との連携による契約取引等（買取・直販・企画販売）を強化することにより、農家手取りの最大化ならびに持続可能な農業経営の実現による愛媛農業の振興をすすめていきます。

マーケットインに基づく 生産・販売事業方式への転換

1. 生産振興・産地づくり

- ア. 水田活用米穀、転作・裏作野菜等水田フル活用の促進
- イ. 重点品目（ビジネスモデル）の生産拡大
- ウ. 実需者ニーズに基づく新規振興作物（多収穫米、加工・業務用野菜等）の普及・拡大と産地づくり

- エ. 関係機関連携による県産農産物の付加価値増大と農業生産工程管理の意識向上に向けたGAP手法の啓発

2. 販売事業の強化

- ア. 契約取引等（買取・直販・企画販売）ならびに共販量の拡大
- イ. 実需に応じた生産および集荷量の維持・拡大
- ウ. 生産流通体制の効率化
- エ. 県産農産物のPR活動強化による消費拡大対策

トータルコスト低減等の実践

1. 生産流通コストの引き下げ対策

- ア. 銘柄集約による価格引き下げ
- イ. 大型規格農薬、ジェネリック農薬の普及および農薬担い手直送規格の普及拡大
- ウ. 低コスト資材の普及拡大
- エ. 安価な農機の取り扱い拡充、包装資材の新規提案活動
- オ. 広域物流体制の再構築、広域選果体制の構築

2. 生産性の向上

- ア. 生産性向上に貢献する資材の導入および技術試験実施による収

図1 「農業者所得増大チャレンジ事業」平成29年度の取り組み

マーケットインに基づく 生産・販売事業方式への転換	トータルコスト低減等の実践	多様な農業者ニーズへの対応
<p><生産振興・産地づくり></p> <p>1. ニーズに基づく新規振興作物の産地づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○業務用多収穫米の実証 5品種9JA (16圃場) 13ha (前年4JA1ha) 平均反収563kg (県下平均508kg) ○野菜の重点8品目の生産振興目標と明確化 ドリームプランの実践 ○加工業務用玉ねぎの生産面積拡大 13ha <p>2. 生産振興対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水稻土づくり栽培体系試験の実施 5JA8圃場で実証。収量改善の検証ができた ○ハルヒメボシへの切り替え及び種子確保 179ha (前年比119%) ○温州みかん、伊予柑の定点土壌診断 84地点 (前年74地点)、伊予柑45地点 ○里芋「伊予美人」東予広域選果体制の確立 3月末時点2,986t (前年比114%) <p>3. 安全・安心への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○GAP指導員資格認証 4名 ○安全安心研修会の開催 (2/28中央会共催) 	<p><生産性の向上></p> <p>1. コスト低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一般高度化成肥料の銘柄集約 444:75,600袋、403:7,800袋の予約 ○農業大規模規格普及率22% 担い手直送超大型規格の普及 ○共同購入、一括引取り低コスト供給 <p>2. 土壌診断に基づく土づくり・適正施肥</p> <ul style="list-style-type: none"> ○土壌診断2,200件 (前年比110%) ○水稻土づくり肥料施肥率23.5% <p>3. 低コスト農機・資材の開発・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ○重点型式、中古農機の普及149台 (同140%) ○規格型低コストハウス3棟 (同89%) <p>4. 広域選果体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成31年3月稼働に向けて、さといも広域選果体制を東予地区4JAで取り組み ○枝豆2JA共同荷造りの実証 <p>5. 生産性向上に資する資材の導入普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ハウスの循環扇、雨センサーの導入 ○支柱挿機の導入による省力化 <p>6. 省力技術の普及による労働費削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ○無人ヘリ防除1,190ha (前年比92%) ○電動バサミ等の普及 	<p><担い手総合支援></p> <p>1. TACの活動・体制の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県下全13JAで活動開始 (TAC79名) ○若手農業者・法人・事業承継への対応 ○県域TAC訪問 152件507回 <p>2. 担い手育成・労働力支援体制の確立・強化への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担い手育成体制整備 5JAで実践支援 ○労働力体制整備 7JAで実践支援 <p><JAの人材育成支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ○TAC、営農指導員研修 16企画延べ374人の参加 <p><JAグループ愛媛担い手サポートセンター 連絡協議会の取り組み></p> <p>1. 協議会(四半期)、実務者会議(毎月) 事業計画の進捗と情報を共有</p> <p>2. 一体的取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最重点4項目の実践 「担い手の育成支援」「労働力確保対策」 「営農指導員の人材育成」「農地流動化対策」 ○全農・信連による同行訪問を実施 5回12件へ訪問 ○合同での「担い手対応」人材育成研修会 「農業サポート実践会議」の開催 ○JAグループ「担い手組織代表者との意見交換会」の開催 (10/27) ○「信連速報」、「TAC通信」を活用した 情報提供「見える化」
<p><販売事業の強化></p> <p>1. 共販量・契約取引等(買取・直販・企画販売)の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○販売高:420億円 (前年比100%) ○園芸契約取引:17.1億円 (同94%) ○玉ねぎを中心とした加工業務用野菜の 契約取引拡大:加工業務用1,006トン (うち新規販売先2社150トン) <p>2. 知的財産活用・消費拡大付加価値向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内外量販店でのフェア・試食宣伝 ○マスメディアを活用したPRの実施 	<p><手取り最大化モデルJA・経営体での検証></p> <p>JAおちいまばり・(株)ファーム咲創</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モデルJA実践メニュー 物財費削減19、生産性向上5、労力費低減9 ○モデル経営体実践メニュー 品目別収支分析を実施、労力費低減提案 	

1. JAの人材育成支援によるTAC(担い手)に出向く担当者活動の強化
2. 関連部門・組織と連携した同行訪問による事業提案力の強化
3. 担い手の経営安定支援およびJAによる担い手育成・労働力支援体制整備の支援
4. 新規就農者・集落営農組織化・

多様な農業者ニーズへの対応
各部門・各連合会との連携を
強化

- イ. 実践結果の総括と課題の明確化、作物別取組効果に基づくJAおよび農業者への水平展開
- エ. 「生産性向上」に向けた実践具体策の作成と実践
3. 農家手取り最大化モデルJAでの実証
- ア. 耕種部門一体となった「物財費削減」「労働費削減」「生産性向上」に向けた実践具体策の作成と実践
- イ. 省力技術の開発普及および無人航空機(ヘリ・ドローン)による省力化
- 量・品質技術の向上

- 法人化・事業承継など多様な担い手ニーズへの対応
- 5. 県産農産物の情報発信および付加価値増大支援

支援対策

1. 支援対策要領

- (1) 生産振興・担い手総合支援
- ア. TAC活動を通じた担い手支援対策
- イ. 水稲・麦・大豆収量・品質向上実証ほ設置対策
- ウ. 高品質果実生産支援対策

- (2) 生産資材トータルコスト低減支援

- ア. JA集荷拡大(フレコンバック)対策
- イ. 肥料・農薬生産基盤強化対策
担い手組織予約・個別予約・土壌診断・肥料担い手直送・農薬大型規格対策
- ウ. 包装資材結集対策
- エ. 農ビ・農ポリ加工品・部会予約結集対策
- オ. 農機格納点検整備支援対策

2. 県域機能の強化によるJA事業の補完・支援

- 3. 農家手取り最大化に向け、耕種

- (1) 県域担い手サポートセンター
連絡協議会の活動強化によるJA活動の支援
- (2) 行政等関連機関との連携による就農フェアへの参画および開催
- (3) 県域による新規就農者、労働力の確保・育成支援体制の確立
- (4) JA域を超えた広域集荷・選果体制確立の支援

推進・企画体制について

- 1. 推進チーム(JA・全農)は、JA営農振興計画に連動した重点品目・県域戦略品目等の生産・販売計画達成に向けた連携強化を図り、JA・全農が一体となり推進の進捗管理が共有化できる体制を構築する。
- 2. 県域では「食糧」「果実」「野菜花卉」の推進チームを設置し、リーダーは販売担当課長・サブリーダーは購買担当課長がその任に就き、部門間連携を強化しJA・部会に対して生産・販売・購買に関する企画提案と進捗管理を行う。

- 4. 県域TACは、県域担い手サポートセンター事業としてJATA・C・県域の品目推進担当者(県域TAC的役割)・他連合会と連携し農業者・地域の担い手に対し事業提案を行うとともに、目標達成に向け関係先との協議・企画・調整を行い、推進チームのサポートを行う。

最終年度を迎えた「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組みをさらに深化・拡充させ、JA・組合員と一体となり、農家手取りの最大化と愛媛農業の振興に取り組んでまいります。

表1 品目別重点取組目標

(1) 米麦

項目	平成28年度実績	平成29年度計画	平成29年度見通し	平成30年度計画	備考
米作付面積	14,700ha	15,027ha	14,500ha	15,127ha	水田活用米穀含む
米集荷数量	13,431 t	15,200 t	12,000 t	14,900 t	水田活用米穀含む
麦作付面積	1,940ha	2,000ha	1,990ha	2,000ha	
多収穫米面積	1ha	13ha	15ha	50ha	
ハルヒメボシ面積	150ha	152ha	219ha	800ha	

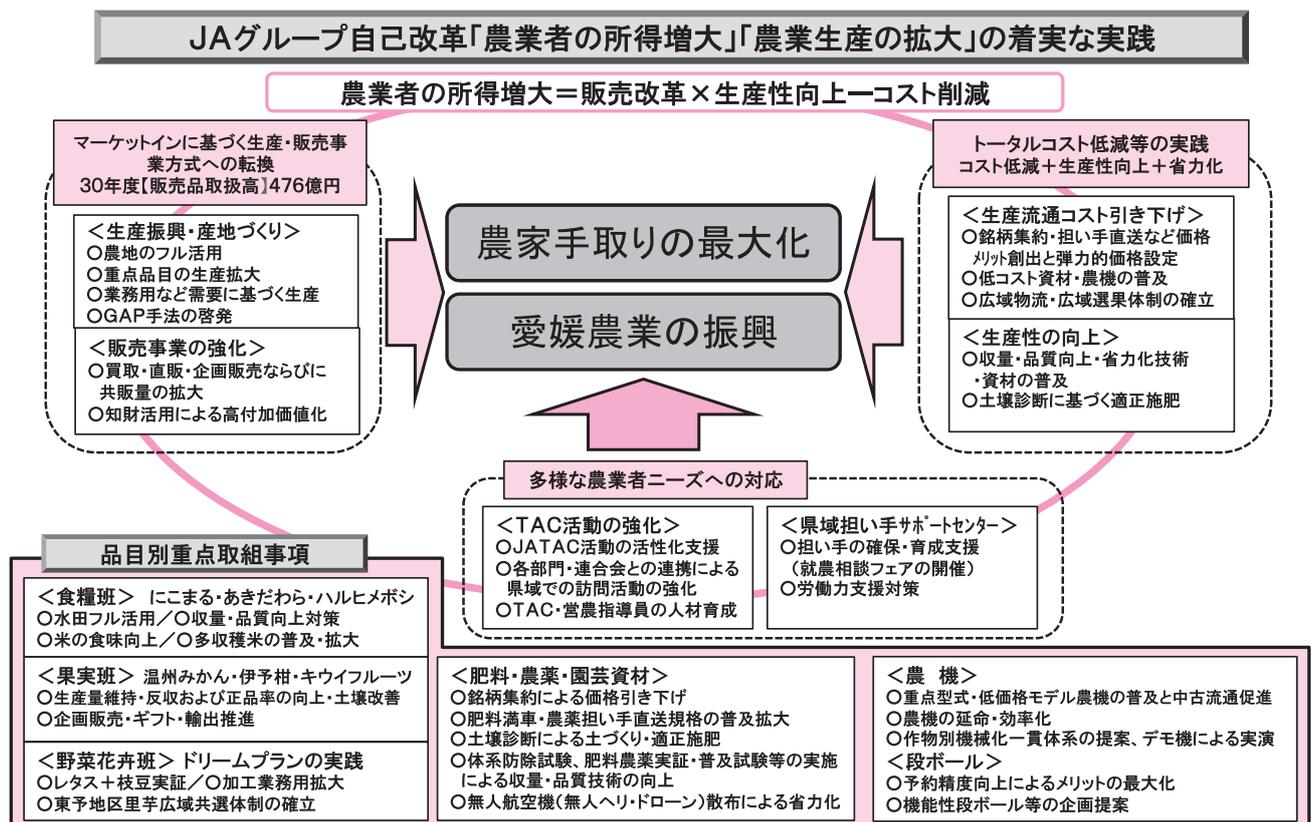
(2) 果実

項目	平成28年度実績	平成29年度計画	平成29年度見通し	平成30年度計画	備考
総販売高	32,725百万円	33,092百万円	32,215百万円	32,968百万円	果実課
	834百万円	780百万円	700百万円	815百万円	直販課
契約取引等	438百万円	550百万円	425百万円	550百万円	企画販売
	834百万円	780百万円	700百万円	815百万円	直販課
温州みかん販売量	50,208 t	55,000 t	43,000 t	55,000 t	
キウイフルーツ販売量 (内セズプリゴールド)	3,858 t (636 t)	5,450 t (650 t)	4,850 t (550 t)	5,170 t (370 t)	

(3) 野菜花卉

項目	平成28年度実績	平成29年度計画	平成29年度見通し	平成30年度計画	備考
総販売高	7,867百万円	8,095百万円	7,833百万円	8,104百万円	野菜花卉課
	258百万円	50百万円	300百万円	215百万円	直販課
契約取引等	310百万円	423百万円	297百万円	423百万円	企画販売
	258百万円	50百万円	300百万円	215百万円	直販課
玉ねぎ 共販量	1,661 t	2,700 t	1,758 t	1,900 t	冷玉+加工業務用
取扱高	155百万円	200百万円	144百万円	153百万円	
里芋 共販量	2,619 t	3,000 t	2,911 t	3,530 t	野菜花卉課
取扱高	607百万円	660百万円	663百万円	742百万円	
直販		50百万円	70百万円	80百万円	直販課
レタス+枝豆		236百万円	227百万円	219百万円	モデル実証

図2 平成30年度 農業者所得増大チャレンジ事業



4月14日＝「オレンジデー」!

道後温泉本館前と松山空港でイベント開催!



4月14日「オレンジデー」は、愛のシンボルである柑橘類などのオレンジを贈り合い、愛を育み大切な人との絆を深める記念日です。平成6年に愛媛県内の柑橘生産農家が発案したとされ、JA全農えひめが平成21年5月、日本記念日協会に登録した記念日です。

JA全農えひめ果実課は、「オレンジデー」当日、PRイベントとして松山市の道後温泉本館前と松山空港到着ロビーで旬を迎えた愛媛県産「清見タンゴール」を配布しました。

道後温泉本館前で サンプリングイベント



4月14日の「オレンジデー」当日、JA全農えひめ果実課は、PRイベントとして松山市の道後温泉本館前と松山空港到着ロビーで旬を迎えた愛媛県産「清見タンゴール」を配布しました。

道後温泉本館前のイベントは昨年続き5回目。JA全農えひめ園芸部の武田孝二部長が、「オレンジデーは『愛を深める日』です。今日お配りする清見を持って帰って、愛する人と一緒に召し上がってください」

とあいさつし、愛媛いよかん大使4人とJA全農えひめ職員が、4月14日にちなんで、県内外の方414人に「清見タンゴール」とリーフレットを無料配布しました。

カップルの記念日として 定着を!



松山空港到着ロビーでも利用客に清見タンゴールをプレゼント

松山空港到着ロビーでも、愛媛いよかん大使4人が414人に「清見タンゴール」をプレゼント。思わぬプレゼントに受け取った方は大喜びでした。道後温泉と松山空港のイベントは県内の多くのメディアでも取り上げられ、愛媛いよかん大使は、

「オレンジデーがバレンタインデー、ホワイトデーに続くカップルの記念日として定着してほしい」と呼びかけていました。



首都圏では、OdakyuOX新百合ヶ丘店等販売協力店のべ19店舗でSPレディによる試食宣伝を実施



京阪神地区では、阪急うめだ本店でオレンジロード企画として、旬のかんきつアレンジレシピ「ブラッドオレンジのカード」試食提案を実施

THE

ねとどわーく

「愛媛産かんきつをPRしていただく」 2018愛媛みかん大使を募集

果実課

J A全農えひめは、「果樹王国えひめ」のみかん・伊予柑キャンペーンをはじめ愛媛産果実の消費宣伝活動に協力していただく『2018愛媛みかん大使』4人を募集します。みか



▲2017愛媛みかん大使の皆さん

ん大使による消費宣伝活動は昭和34年度から実施しており、今回が60回目（60代目）となります。

◆応募資格

- ① 愛媛県内在住の18歳以上（高校生は除く）の元気で明るく好感の持てる方。
- ② モデルなど特定の会社や団体等と専属契約していない方で、他のコンテストに選出されていない方。
- ③ 愛媛県産果実の消費宣伝キャンペーン等の活動に必ず参加でき、明朗・快活で表現力豊かな方。
- ④ 勤務先・学校等の理解と協力が得られ、愛媛みかん大使として年間活動できる方。

◆応募方法

- ① 所定の応募用紙または既存の履歴書等に必要事項を記入のうえ、サービス判程度の上半身の写真

を添えて、応募先まで郵送ください。

- ② 応募用紙は、県内J A・J A全農えひめ・リジエール松山・各テレビ局・愛媛新聞社・各大学・専門学校の受付等に置いてあります。また、J A全農えひめホームページからも印刷できます。
- ③ J A全農えひめホームページ「みかん大使募集」ページおよび携帯サイトからも応募できます。※応募書類・写真は返却しません。

◆募集期間

- ① 平成30年6月8日（金）～7月9日（月）（当日消印有効）

◆審査方法

- ① 事前審査（書類審査）
7月19日（木）
- ② 最終審査（面接審査）
8月3日（金）、リジエール松山で面接審査を行い、4人を選考。

◆任命式（8月23日（木））

J A全農えひめ、愛媛県果樹同志会、マスコミ関係者らが審査します。

◆副賞ならびにプレゼント

- ① 愛媛みかん大使（4人）

- ② 委嘱料20万円を進呈します。
- ③ 最終審査出席者全員

書類審査に合格し最終審査に出席いただいた方には、交通費と愛媛の柑橘ジュースを進呈。

◆『愛媛みかん大使』の活動

- ① 任期
平成30年9月～31年8月末
- ② 活動内容（年間40日程度）
全国各地での表敬訪問、テレビ・各種イベント出演、試食宣伝キャンペーン等への参加（日当・交通費・制服一式を支給）。

【キャンペーン等スケジュール】

- ・11月（みかん）
東京・大阪
- ・2月（伊予柑）
東京・大阪・北海道
- ・4月
「オレンジデー」関連イベント

他

応募先・問い合わせ

〒790-8555

松山市南堀端町2番地3
J A全農えひめ果実課
愛媛みかん大使募集係

☎089-948-5482

【ホームページアドレス】
<http://www.eh.zennoh.or.jp>



誰でも先生、誰でも生徒、 どこでもキャンパス

東京で生まれ育ち、高校卒業後は映画監督を目指して渡米、ニューヨークへ乗り込んだものの挫折、そんな時に出会ったのが愛媛県松山市出身の女性（妻）だった。その後、愛媛と東京で働き、やはり愛媛で働きたい！と就職した先は愛媛県観光課だった、2002年の夏である。愛媛県観光課には6年間在籍し、その後は松山市観光産業振興課に3年間お世話になり、計9年間、よそ者の私は愛媛県の観光行政に携わるという特別な経験をした。

私が携わった業務は、愛媛県内で撮影を希望する映画・映像作品を愛媛県に誘致し支援する「フィルム・コミッション」や地域の魅力を発信、誘客する「観光企画」だった。

愛媛県の魅力を挙げよ！と言われてれば、瀬戸内海を目の前に、後ろは西日本最高峰の石鎚山、西には日本一長い

佐田岬半島、東では造船やタオル産業が栄え、県都には日本最古の道後温泉、40種類以上の柑橘類を栽培する柑橘王国、真珠や真鯛といった魚類養殖は日本一、千年以上続くお遍路文化があり、四国霊場は26箇所と四国で最も多い。

フィルム・コミッションに携わると愛媛の豊かな自然を実感する。というのも自然は一つではなく、季節には春・夏・秋・冬、天候には晴・曇・雨・雪、時刻には暁・朝・昼・夕・夜・深夜があり、組み合わせに同じ表情はない。毎時間、毎日は同じように感じるが実は同じではないのだ。

また、自然だけが魅力ではない。先人たちが築いてきた歴史や文化、芸術なども魅力と捉えると辺りは魅力だらけだ。しかし、辺りに魅力は豊富とわかっていても、現地を訪れたり、魅力に触れたことのある人は意外と少ない。「愛媛は魅力的だ！」とわかっていても実体験

泉谷 昇

NOBORU IZUMITANI

■プロフィール■

NPO法人いよココロザシ大学 理事長・学長。
1971年東京都出身。高校卒業後渡米。映画製作などを学び帰国。
コンサルティング業務を経て、2002年～2008年愛媛県観光課勤務。
えひめフィルム・コミッション担当。2008年～2011年松山市観光産業振興課勤務。観光企画、フィルム・コミッション担当。
「世界の中心で、愛をさけぶ」「HERO」「がんばっていきまっしょい（TV版）」「書道ガールズ」「坂の上の雲」「真夏の方程式」など500本以上の映画、映像作品の撮影支援に携わる。
2011年「誰でも先生、誰でも生徒、どこでもキャンパス」を掲げ、「いよココロザシ大学」設立。松山市花園町には県内の生産者などがつくった品が並ぶセレクトショップ「愛顔の食卓」がある。



▲松山市花園町通りに面するセレクトショップ「愛顔の倉庫」店頭にて

のない情報ばかりではもったいないと思います、2011年6月に開校したのが、一人一人が自然や社会、人と主体的に繋がり「自分の言葉で地域の魅力を語れる社会の実現」を目的とした「いよココザシ大学」だ。

「誰でも先生、誰でも生徒、どこでもキャンパス」を掲げ、一人一人の知識や技術、経験を授業という仕組みで学びあう。開校以来、2千人を超える市民が学生登録し、600回以上の授業に延べ3万人が参加してきた。そし

て授業を受け持ってくださいました市民先生は330名を超えた。市民先生には農家、漁師、唎酒師、映画監督、学者、国連職員、郷土史家、学生や主婦、海外からの留学生などもいる。

授業はこんな感じだ。伊方町三崎のアワビの美味しさを学ぶために海人から「アワビが美味しい理由はアワビが食べる海藻が美味しいから」と教わり納得する。しかし、海藻が美味しい理由まで私たちは知らない。「海藻が美味しい理由の一つに佐田岬半島に降り

注ぐ雨が山の養分をたくさん含んで川や海に流れ込む。そこで育つ海藻は栄養をたくさん吸収するからである」と聞くと「海と山は友達」という言葉を思い出し、アワビの美味しさを知ると山の保全が大切と気づくのである。

また、柑橘王国愛媛の代名詞は「みかん」だ。特に八幡浜のみかんには「日の丸みかん」、「真穴みかん」などのブランドがある。そこで先ず宇和島市吉田町にある全国唯一の「みかん研究所」を訪れ、愛媛県のみかんへの取り組みを見学し、その後は真穴みかんの現場で生産者から話を伺い、日の丸みかんの収穫体験をして、選果場の見学をさせていただいた。柑橘王国だからできる授業だ。

授業を通し学びあうと「地域の魅力は人抜きでは語れない」とわかる。また培われてきた経歴や歴史、知恵や工夫も想像でき、愛媛への興味関心にもつながる。地域の魅力はどこか遠い所にあるモノコトではなく、意外と近く、それも身の回りにあることが多い。興味関心をもって地域を見直してみると、埋もれていた、埃をかぶり古臭いと思われるモノコトでも魅力を再発見できるから不思議だ。地域の魅力とは「宝探し」と同じなのだ。宝探しは今日からでも始められる！

●平成29年度愛媛県果樹同志会大会

「かんきつ王国愛媛！さらなる飛躍！魅力ある産地へ」をテーマに開催

県内果樹生産者で組織する愛媛県果樹同志会は、3月23日、松山市の(株)えひめ飲料本社で「平成29年度愛媛県果樹同志会大会」を開き、30年度の活動方針などを決めました。大会には、同志会員ら関係者約400人が出席しました。

活動基本方針では、温州みかんで園地・樹ごとのバラツキが年々増している中で、隔年結果防止に取り組むとともに、中晩柑類・落葉果樹類を含め高品質安定生産対策に引き続き取り組むことにしています。また、産地の基盤整備の遅れなど多くの課題を抱える中で、果樹産地構造改革計画の実践と果樹農業好循環形成総合対策事業を有効活用し、優良品目・品種への転換や園地整備など経営基盤強化を図ることなどを確認しました。

大会宣言では、①基本管理の徹底で高品質連年安定生産を、②計画出荷で信用と信頼を、③未来を見据えた産地適作で園地若返り、④安全安心 喜ばれる愛媛のかんきつ作りは 生産者の意識から－を採択しました。

大会では、29年度の活動報告や情勢報告のほか、西字和青壮年同志会玉井真吾会長から「JAにしようの高品質生産の取り組み」と題した事例報告がありました。主な入賞者は次の通り（敬称略。カッコ内はJA名。※早生みかん果実コンクールとえひめみかん祭り果実・ほ場コ

ンクールの主な入賞者は前号までに紹介しているため省略します）。

- ◆平成29年度柑橘園地若返りコンクール
- ▽愛媛県知事賞＝忽那恵雄〈えひめ中央〉
- ▽優等賞〈全農愛媛県本部長賞〉＝松尾坊ちゃん倶楽部〈おちいまばり〉



えひめみかん祭りほ場コンクール農林水産大臣賞の濱田富幸さん（JAえひめ中央）
えひめみかん祭り果実コンクール農林水産大臣賞の青木聡さん（JAえひめ中央）

●親子で学ぼう地産地消体験ツアー

見て、触れて、食べて農業の魅力を知ろう！

えひめ愛フード推進機構とJA周桑、JA全農えひめ、JA愛媛野菜生産者組織協議会は、3月28日、「春休み親子で学ぼう！地産地消体験ツアー」～丹原できゅうり・アスパラガス・いちご体験コース～を実施しました。

地産地消体験ツアーは、愛媛産農産物を親子で見て、触れて、食べる体験を通して、地産地消の意義を学んでもらおうと実施したもので、当日は松山市近郊の親子14組37人が参加し、JA周桑管内を訪問しました。

JA周桑では、きゅうりや里芋「伊予美人」、アスパラガスの選果風景やきゅうりとアスパラガスの圃場を見学し、JA周桑いちご部会の秋川貴則部会長の畑でいちごの収穫に挑戦しました。子供たちは、「おいしい」「甘い」とい

ごを頬張りながら、自分たちで組み立てた収穫用の箱いっぱいにいちごを詰めていました。ツアーの最後には直売所「周ちゃん広場」で買い物を楽しみました。



●愛媛県農業振興連絡協議会 理事会

県行政とJA全農えひめが連携強化し農業振興を！

愛媛県農業振興連絡協議会は、4月26日JA愛媛で平成30年度の理事会を開き、30年度の活動計画を決めました。

同協議会は、県行政とJA全農えひめが連携し、愛媛農業の振興と農家経済の安定に寄与することを目的に、昭和32年に発足。事業別に9専門部会を設置し活動しています。

理事会には、JA全農えひめの小越慎介県本部長、県農林水産部の田所竜二部長など、県・JA全農えひめ・JA愛媛中央会の関係者約35人が出席。専門部会9部会の29年度の活動報告、30年度の計画を決めたほか、JA全農えひめの「JAグループの担い手育成対策への取り

組み」、愛媛県の「普及組織の再編と新たな普及指導活動」「JAと連携した新たな担い手対策の推進」について、取り組みを紹介しました。



●系統経済事業意見交換会

農業者の所得向上など今後の方向・計画について意見交換

JA全農えひめは、県内JA代表者の声を事業運営に反映させようと、4月25日、JA愛媛で、平成30年度「系統経済事業意見交換会」を開きました。

会議には、県内JAの経営管理委員会会長、代表理事組合長・理事長のほか役員、全農本所から久保田治己常務、愛媛県本部から菅野幸雄運営委員会会長と部長以上の幹部職員、グループ会社の社長などが出席。事業概況と30年度事業計画について説明後、意見交換を行いました。

菅野会長は、「JA全農では、平成28年度より、『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』『地域の活性化』を事業施策の柱として3か年計画を実践しているところであり、今年度が最終年度となります。30年度は『生産資材価格の引き下げ』『流通・加工の業界構造の確立』などを中心に、『魅力増す農業・農村』の実現に向けたJAグループの取り組みと提案で示した具体策

をさらに深化・拡充するとともに、スピードを上げて実践して参ります」とあいさつしました。

JA役員からは、「29年度の肥料銘柄集約による価格の引き下げについては評価したい」「果樹用肥料の銘柄集約や農薬の低コスト化を」「農機中型クラスの低コストモデルを作ってほしい」「農業者所得向上のため物流コストの削減を」など、質問や意見が出されました。



●第4回「しずく媛」サミット

愛媛生まれの酒米「しずく媛」のブランド化に向けて！

J A全農えひめ、愛媛県などで組織する愛媛県米麦振興協会および産地J A、愛媛県酒造組合は、愛媛県で育成された酒造好適米「しずく媛」のブランド化に向けて、4月27日、松山市のJ A愛媛で第4回「しずく媛」サミットを開きました。

サミットは、「しずく媛」生産者と酒造会社の交流を通じて連携をさらに強化し、生産振興と需要拡大を進めようと平成27年から実施しており、今回が4回目となります。愛媛県酒造協同組合の各蔵元、生産農家、J A・J A全農えひめ・県の関係者など約60人が参加しました。

第1部では、県農林水産研究所が29年産「しずく媛」の高品質栽培技術実証の取り組み、県農産園芸課が愛媛県酒米推進コンソーシアムの取り組みを報告しました。また、愛媛県酒造組合の八木原料米委員長が、今後のしずく媛を使った清酒の考え方を説明。29年産米の仕込みからは県内各蔵元が「しずく媛」を原料に統一ブランドの清酒を造って販売するスタイルから、「しずく媛」を原料とした清酒の種類を増やす方向に変更しており、将来的には各蔵元の柱にしていきたいとの説明がありました。

第2部では一般消費者約60人を招いてきき酒会も行われ、各蔵元から出された新酒の紹介や意見交換会が行われました。

「しずく媛」は、平成19年に品種登録された愛媛県初の酒造好適米（酒米）。「愛媛の米からおいしい愛媛の酒のしずくが生まれるように」

という願いを込めて名付けられました。現在、愛媛県内21の蔵元が、このお米を使った清酒を販売しています。

J A全農えひめでは、19年産から本格的に作付推進を行うとともに、「しずく媛」を使った日本酒の販売促進活動を展開。産地により収量・品質に格差が生じたため、23年産より県・関係機関と一体となり、産地適性を見極めながら作付誘導を行っており、29年産は35haで契約栽培し、約138tを出荷しました。30年産は、150tの集荷量を見込んでいます。

サミットに先立ち、最優秀賞の石田一浩さん（J Aひがしうわ）など29年産で高品質・高収量をあげた「しずく媛」優良生産者を表彰しました。その他の優良生産者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJ A名）。

▽優秀賞＝丹生谷政義（えひめ中央）、(有)豆道楽（ひがしうわ）、徳山義恭（ひがしうわ）、清水口正敏（ひがしうわ）、谷口勝彦（ひがしうわ）



試飲をする一般消費者

●全農杯全日本卓球選手権ホープス・カブ・バンビの部愛媛県予選 全国大会出場をめざし少年少女が熱戦！

7月27日から神戸市で開催される全農杯全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）への出場をめざし、5月12日愛媛県総合運動公園体育館で、愛媛県予選会が開かれ、少年少女85人が出場しました。

この大会は、県卓球協会が主催する小学生対象の大会では最大規模を誇ります。男女別に小学6年生以下のホープスの部、4年生以下のカブの部、2年生以下のバンビの部の3クラスに分かれ、予選リーグと決勝リーグを戦って、男女各クラス2位以上の選手と特別推薦枠2人、大会推薦出場選手1人を加えた計15人が、全国大会に出場します。

女子ホープスの部で優勝した篠原^{ゆら}夢空さん（松山卓球教室）は、2016年度の全国大会で優勝。6年連続の全国大会出場を決めました。「全

国大会では二度目の優勝をめざしたい」と副賞を手に力強く話していました。

J A全農えひめは、参加賞のほか、男女各クラス3位以上の選手に副賞として「えひめみかんいよかんジュース」とひめライス「愛媛県産にこまる」を贈呈しました。



女子ホープスの部優勝の篠原さん（写真左）、2位の山藤結夢さん（松山卓球教室）、3位の水島和香さん（伊予つばさ）

●第53回記念えひめ花まつり

花と緑いっぱいイベント開催

5月3日・4日の2日間、花に親しんでもらい花の消費拡大につなげようと、東温市の愛媛県農林水産研究所農業研究部花き研究指導室で、第53回記念「えひめ花まつり」が開かれました。

会場では、花の展示やフラワーオークションなどが行われ大勢の来場者で賑わいました。また、5月4日には、東温市農村環境改善センターで第53回記念「えひめ花まつり花のコンクール」表彰式が行われ、愛媛県農産園芸功労知事表彰とJA全農えひめを通じて出品したヒマワリが愛媛県農業協同組合中央会会長賞を受賞した堀

本幸雄さん（JA愛媛たいき）らが表彰されました。



堀本さん



愛媛県農業協同組合中央会会長賞を受賞した堀本さんのヒマワリ

●ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場

2周年を記念して創業祭を開催！

JA全農えひめが東温市で運営する農産物直売所とコンビニの一体型店舗「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」は、4月27日～4月30日の4日間、オープン2周年を記念して創業祭を開催しました。

期間中は、出荷者団体フレッシュ市部会による「うどんお接待」、「全農のお肉屋さん」による県内産ブランド肉の試食販売のほか、JAえひめフレッシュフーズ(株)による「たまごつかみどり」、(株)えひめ飲料による「ポンジュース蛇口」、ガラポン抽選会など日替わりで多彩なイベントやお買い得企画を実施し、大勢の買い物客で賑わいました。

「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」では、各種イベントを定期的に行い、地域とのふれあいや消費者との交流を深めるとともに、利便性の向上に努めています。直売コーナーの商品にもTポイントがつくことや日替わりサービス企画などのお得もいっぱい입니다。ぜひ皆さんもご来店ください。



フレッシュ市部会による「うどんお接待」は開始と同時に長蛇の列ができ大賑わいでした

●「いよっくら」運営協力会総会

“いよっくらファン” 拡大を

JAえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっくら」運営協力会は5月8日、ウェルピア伊予で平成30年度の総会を開き、30年度事業計画を決めました。

30年度はお客様が求めている直売所をお客様目線で捉え、出荷会員と店舗が一体となりそのニーズに応えることで、地域での存在感をこれまで以上に高めていくことを確認しました。

オープン13周年を迎える30年度は、「13周年感謝祭」をメインに様々なイベントや食農教育を実施していきます。また、ミニラジオ番組や

ホームページ、店舗に設置してあるデジタルサイネージなどを通じて、情報や魅力の発信、お客様との交流をさらに深めていきます。



●無人航空機「ドローン」農薬デモ散布

防除作業の負担軽減と高品質安定生産へ！

J A全農えひめでは、平成30年度より県内にて、ドローンによる農薬散布の普及拡大を進めています。この取り組みは、生産者の防除作業の負担軽減や農作物の高品質安定生産を目的としています。

4月17日、J Aえひめ中央とJ A全農えひめは共同で「ドローンによる農薬デモ散布」を、松山市北条地区のはだか麦の圃場（2か所、40a）で実施しました。

現在、県内の無人航空機による農薬散布はヘリコプターが主流です。しかし、中山間地域では圃場が小さくまとまっていないことや、平野部では騒音問題等により、無人ヘリコプターでは防除が実施できない圃場が多くあります。そのような地域ではドローンでの農薬散布が期待されており、農業分野での活用が大きな注目を集めています。

平成29年度の無人航空機ドローンによる防除

面積は、全国で8,299haに上り、調査を開始した平成28年度（684ha）の12倍の面積にまで拡大しています（農水省調査）。

J A全農えひめ肥料農薬課は「今回のデモ散布の結果を検証し、県内全域での取り組みを進めていきたい」としています。



ドローンによる農薬デモ散布の様子

●第23回 愛媛県子牛品評会

県知事賞に宮本賢吾さんと池田一成さん

J A全農えひめ主催の「第23回愛媛県子牛品評会」が、4月18日、西予市の野村畜産総合振興センターで開かれ、雌牛の部で宮本賢吾さん（J Aひがしうわ）の出品牛「ともみ」、去勢の部は池田一成さん（J Aえひめ南）の出品牛「愛都113」が優等賞（県知事賞）を受賞しました。品評会には、県内7 J Aから生後1年未満の県内産黒毛和種117頭（雌牛の部55頭、去勢の部62頭）が出品されました。

宮本さんは、「県知事賞の受賞は初めて。驚きと嬉しさでいっぱい。これからも良い子牛を出品できるように日頃の飼養管理に努めたい」と笑顔で知事賞受賞を喜びました。

品評会後に今年度第1回目の和子牛臨時市場が開催されました。全国的な子牛相場の高値止まりがあるものの、1頭あたりの平均価格（税込）は雌が前回2月の価格を64,441円下回る60万8,101円、去勢は前回は1万5,472円下回る74万1,888円で取引されました。1頭あたりの最高額（税込）は去勢92万160円でした。

全農えひめ畜産部によると、2017年度に開いた臨時市場6回の実績は、上場頭数587頭で前年と比べて34頭減。1頭あたりの平均価格（税込）は前年を4万3,126円下回る71万6,552円でした。

J A全農えひめは繁殖基盤の維持拡大を加速させるため、肉用牛センターを活用し、繁殖農家の負担を軽減するCBS（キャトル・ブリーディング・ステーション）事業を展開。行政と一体となって県ブランド「愛媛あかね和牛」の生産、販売体制の整備と和牛素牛の生産増頭の取り組みを進めています。

その他の入賞者は次の皆さん（カッコ内はJ A名）。

【雌牛の部】▽1等賞＝池田一成（えひめ南）、福山保（愛媛たいき）【去勢の部】▽1等賞＝井関秀夫（ひがしうわ）、越智章（周桑）

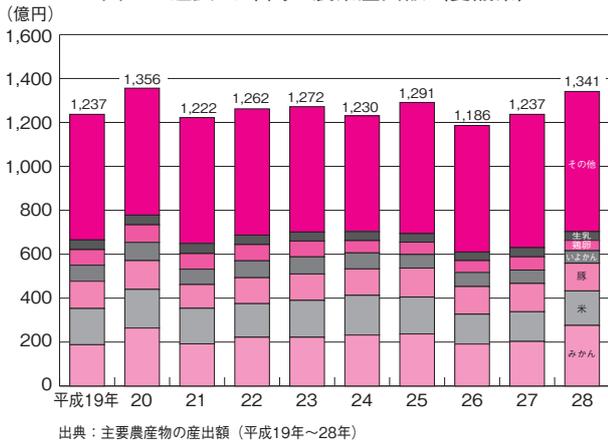


県知事賞を受賞した宮本さんと「ともみ」

統計BOX

愛媛県の農業産出額が8年ぶりに1,300億円台回復 —平成28年生産農業所得統計結果から—

図1 過去10年間の農業産出額（愛媛県）



平成28年の愛媛県の農業産出額（以下産出額）は1,341億円（前年比104.4%）で、過去10年間で20年の1,356億円に次ぐものとなり、8年ぶりに1,300億円台を回復しました（図1）。

みかん、米、豚で4割を占める

農林水産省では毎年、農業総産出額及び生産農業所得を作成・公表しています。この統計は農業生産の実態を価値量的面から把握することを目的に、農産物の生産量や価格などの統計を用いて推計したものです。3月末には市町村別の農業産出額（推計）を、4月末には県別の上位50品目の農産物産出額も公表しましたので、今回はこの結果をもとに品目や各市町の概要を見てみましょう。

図2 農業産出額が増加傾向にある品目（抜粋）

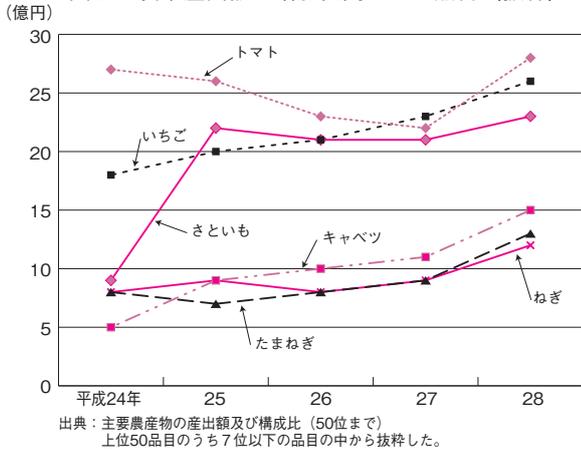
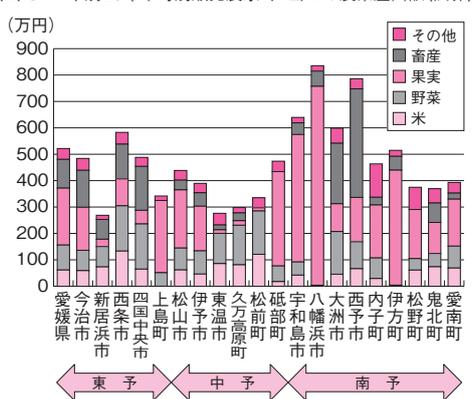


図2に、7位以下で過去5年間で増加傾向にあるいくつかの品目をあげています。野菜類が多いのが特徴的で、特に生産量全国4位のさといも（9億円→23億円）やキャベツ（5億円→15億円）は2倍以上に、いちご、ねぎ、たまねぎなども増加傾向にあります。

近年はさといも、キャベツなどが増加

産出額の上位品目は、1位がみかん（276億円）、次いで米（157億円）、豚（126億円）となっており、この3品目でおよそ4割を占めています。特にみかんは18年以降首位を守り続けています。また、鶏卵、いよかん、生乳を加えた上位6品目は、若干の順位の入替わりはあるものの、10年以上にわたりその座を明け渡していません。

図3 平成28年市町別販売農家1戸当たり農業産出額（試算）



注：各市町毎の農業産出額を販売農家数で除した試算結果である。
（1戸当たり農業産出額＝市町別の産出額（推計）÷販売農家数）

（★検索ワード）「平成28年農業産出額」「市町村別農業産出額（推計）」
中国四国農政局愛媛支局 統計チーム

なお、愛媛県の特産かんきつ「せとか」や県オリジナルの「紅まどんな」「甘平」などは、全国規模の推計対象農産物ではないことから、公表した上位50品目には含まれません。地方設定品目として、「せとか」は19億円、「紅まどんな」16億円、「甘平」7億円と推計しています。

市町別の産出額は、西予市（1、801億円）、西条市（1、525億円）、松山市（1、466億円）など、農家数や耕地面積等の多い市町が上位を占めます。そこで、農家1戸当たりではどうかと試算してみました（図3）。県内は東・中・南予で特徴的な農業が営まれています。これを見ると、かんきつや畜産などが盛んな南予の市町を中心に産出額が多くなっていることがわかります。

農業産出額の作成方法や利用上の注意などの詳細は、農水省HP「統計情報」（「生産農業所得統計の概要」で検索）をご参照ください。



●「農の風景」を読んで。食育講座で講師を務めた池田一成さんと同じ生産者組織協議会に専業農家として所属しています。ページをめくってすぐの記事に嬉しい気持ちになりました。子どもたちの笑顔を見て、これからも県内の子どもたちに安全・安心な美味しい牛肉をたくさん食べたいです。

(宇和島市・中田 美子さん)

●伊予牛「絹の味」黒ラベル、食べてみました。愛媛にこんなにも美味しい牛肉があるのだと感激しました。学校給食での子どもたちの笑顔が目に浮かんでくるようでした。

●「農の風景」、地産地消はこれから育つ子どもたちにぜひ教えていってほしいです。愛媛で作られた農作物、愛媛で育てられた畜産。子どもたちに味わって、そして感謝して大きくなってほしいです。

(今治市・阿部 徳子さん)

●「好きが叶えた奇跡」を読み、とても素晴らしく感じました。キューティエリーさんのように「楽しさは伝染する」と思えば、私ももっといろんなことにチャレンジする勇気が湧いてきます。そして誰かの「夢」「楽しい」「好き」を応援していきたいと思いました。

(西条市・玉井 一枝さん)

●特集を読んで。生産面においてジェネリック農薬の開発など生産コストの引き下げをすすめる、とあり、同程度の効能があるのならジェネリック農薬の開発にぜひ取り組んでほしいです。

(松山市・永井 朋代さん)

しいと思いました。

(大洲市・大本 昭裕さん)

●「エッセー」を読んで。地元プロレス団体の厳しさを感じながらも、自らの信念を貫き活動されている姿に、同じ女性として自分もこうありたいと思いました。

●愛媛と言えば「いよかん」。生産者の努力もさることながら、各5都市、役所、市場へと訪問され店舗のPR活動もされたりと、愛媛いよかん大使の皆様のご尽力が伺えます。今年の大使の皆様も頑張ってください！

(新居浜市・加藤 怜さん)

●みかん県愛媛、種類も数えきれないほどあり、年中美味しく食べられることが何よりの嬉しさです。これも生産者の皆様のご苦労があつたこと。頭が下がります。

(今治市・窪田 貴大さん)

お知らせ 読者名簿更新について

J A全農えひめ情報誌「あぐり〜ど」は、愛媛県内J Aの役員（非常勤理事・監事含む）・職員、生産者組織や女性組織のリーダー、県行政や関係機関、県内報道機関を対象に無料配付しています。現在、読者名簿の更新を随時行っています。この名簿更新により、お届けできなくなることもあります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今月のクイズ

2018愛媛みかん大使を募集中です。愛媛みかん大使は、今回で何代目になるでしょうか？

「第〇代目」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成30年7月20日（当日消印有効）

発表表

「あぐり〜ど」8・9月号で発表します。

当選者発表

4・5月号の答えは「42回目」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10人の方に図書カード1,000円分をお送りします。

- 米花佐智子さん（八幡浜市） 武智セツ子さん（松山市）
- 松本 里香さん（松山市） 相原 靖志さん（松山市）
- 田岡 栄子さん（松山市） 瀬川 憲子さん（西条市）
- 越智 修三さん（今治市） 菅 隆子さん（今治市）
- 大原 稔さん（四国中央市） 寺尾 智美さん（四国中央市）

編集後記

★先日、お昼休みに同僚が「サラダ納豆」を食べていました。「え！サラダに納豆？」と思ったのですが、納豆のネバネバ感とサラダのシャキシャキ感が意外と合って美味しいらしい！納豆、きのこ、ヨーグルト…今話題の「菌活」。健康、美容に良いとは分かっているけど毎日摂取できないですね。「サラダ納豆」のように、他の食材と組み合わせると飽きずに続けられそう♪夏バテ対策にも食生活に気を配りながら、暑い夏を乗り切っていきましょう！

(有紗)

今月の素材

枝豆



甘みに、コクに、もっちり食感
ビールのお供に、是非どうぞ！

▶ (右) 枝豆と豆腐のフワフワ揚げ、(後) 枝豆ガーリックホイル焼き、
(左) 枝豆とタコの塩昆布和え



指導／学校法人愛媛学園（愛媛調理製菓専門学校）大佐古 正子先生

枝豆とタコの塩昆布和え

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約89kcal	
枝豆（サヤ付）	150 g
塩	適量
タコ足（ボイル）	1本（約80 g）
長芋	10cm（約200 g）
ミョウガ	2本
塩昆布	10 g
ワサビ	適量

〈作り方〉

- ① 枝豆は塩茹でし、冷水に取り、サヤから取り出す。
- ② タコは一口大に、長芋は1cmの角切りにする。ミョウガは小口切りにする。
- ③ ボウルに①、②、塩昆布をさっくりと混ぜ合わせて、少しなじませる。
- ④ 器に盛りつけ、ワサビをのせる。

枝豆ガーリックホイル焼き

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約77kcal	
枝豆（サヤ付）	200 g
ニンニク	1かけ
輪切り唐辛子	3～5個
オリーブオイル	大さじ1
塩	小さじ1/2

〈作り方〉

- ① 枝豆は水でさっと洗い、ザルに入れ、水気をよく切る。
- ② アルミホイルを大きめに広げ、①をのせ、ニンニク、唐辛子、塩、オリーブオイルを振り入れ、さっくり混ぜ、アルミホイルを閉じる。
- ③ フライパンにのせ、中火で8～10分焼く。

枝豆と豆腐のフワフワ揚げ

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約252kcal	
枝豆（サヤ付）	100 g
塩	適量
木綿豆腐	1丁
ニンジン	1/4本（約40g）
チリメンジャコ	30 g
卵	1個
片栗粉	大さじ4（約40g）
マヨネーズ	大さじ2
揚げ油	適量

〈作り方〉

- ① 枝豆は塩茹でして冷水に取り、サヤから取り出す。
- ② 豆腐はキッチンペーパー等で水気を取る。ニンジンは千切りにする。
- ③ ボウルに豆腐を入れてよくくずし、卵、片栗粉を加えて混ぜ、①、ニンジン、チリメンジャコ、マヨネーズを加え、混ぜ合わせる。
- ④ フライパン等に油（1～2cm程度）を170℃に熱し、③をスプーンで一口大にすくい入れ、揚げる。

柑橘王国「愛媛」の隠れた逸品をお届け

「河内晩柑」は品種が発見された熊本県にある河内町の「河内」と、遅い時期に採れる柑橘類の総称「晩柑」から名付けられました。爽やかな香りと味わいが特徴の河内晩柑果汁炭酸をお楽しみください。

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

<http://www.ehime-inryo.co.jp>
(通販専用) <http://www.pom-j.com>

JA全農えひめ

刻まれた想いこれからも。

60th anniversary

愛媛みかん大使募集

2018 The 60th Ehime Mikan Ambassador Since 1959

募集期間 平成30年 6月8日(金)～7月9日(月) 賞品 愛媛みかん大使(4名)全員に…
賞金20万円

応募方法



下記応募先に
応募用紙または、
履歴書を郵送!



JA全農えひめホームページ
から直接応募!
スマートフォンはこちらから▶



携帯サイト
から直接応募!
携帯サイトはこちらから▶



応募先およびお問い合わせ／〒790-8555 松山市南堀端町2番地3 JA全農えひめ 果実課「2018 愛媛みかん大使募集係」
Tel.089-948-5482 Fax.089-948-5779 <http://www.eh.zennoh.or.jp>

みかん大使募集

検索

主催／JA全農えひめ ※個人情報、愛媛みかん大使事務局にて適切に管理し、選考(発表を含む)並びに記念品等の発送に利用させていただきます。



環境に配慮した植物油インキ
を使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。